学校だより

磨光

令和８年１月27日（火）
三豊市立本山小学校
No. 26
発行者：中田　祐二

24日の授業参観、臨時PTA総会、防災訓練には、たくさんのご参加をいただき、ありがとうございました。雨もようで寒さも厳しい中でしたが、無事、実施することができました。

以前、閉校記念式典を取り上げた「磨光」では、６年生の記事がなかったため、「なんで載せてくれんの？」と６年児童から悲しく訴えられたことがありました。そこで、今回は６年生の人権の授業を中心にお届けします。

幸せを考える　人権の授業で

６年生の人権学習では、骨のがん（大腿骨骨肉腫）と闘いながら最後まで命の大切さを訴え続けた猿渡瞳さん(当時13歳）の生き方から、「本当の幸せ」について考えました。

「私、がんなんかに絶対負けないから。大好きなお母さんががんじゃなくて、私で本当によかった。」と、がんと知らされても、抗がん剤の副作用に苦しんでいても、周囲を明るくし続けた瞳さんは、亡くなる２か月前の弁論大会で、幸せについて、次のように語りました。

「みなさん、本当の幸せって、何だと思いますか。それは、『今、生きている』ということなのです。」

【幸せを語る６年生】

授業の終盤、ある子どもから「１日１日を大切にする」という誓いにも似た発表がありました。普段の日々は、概して淡々と過ぎていくものです。お誕生日やクリスマスのようなイベントがいつもあるわけではありません。「１日１日を大切にする」ということは、平凡な日常の幸せを大切にするということに通じるように思います。それが瞳さんの言う「今、生きている」ということかもしれません。

ちょうどこの日の朝日新聞「天声人語」に、５歳の息子と暮らす五輪メダリストの小さな幸せの記事が取り上げられていました。

> ５歳児は言い間違いも、可愛い。例えば、ほっぺたはホペットだ。正してあげようと思うけど「ママのホペットに何かついてるよ」なんて言われると、直すのがもったいないくらいに愛おしくなる。松本さん（※母）はつぶやく。「幸せって案外これくらいでいいんだよなぁ」
>
> （朝日新聞「天声人語」（2026.1.24）から抜粋）

五輪メダリストにとって、メダルよりも５歳の息子との日常の方が、「幸せ度」は大きいのでしょう。

６年生も、大人になって小学校生活を振り返った時に「幸せだったな」と思い出すのは、文集に残るような大きな出来事ではなく、文章にも写真にも残っていないような時間なのかもしれません。

卒業まであと２か月を切りました。１日１日の何気ない時間を大切にすることが、幸せに通じるような気がします。

炊き出し訓練で

寒空の中、うどんの炊き出しを待つ間、子どもたちと保護者の方々が長い列を作りながらも、整然と並んでいました。災害を想定した場でのこの姿を見た時に、阪神・淡路大震災の避難所で、人々が静かに列を作って順番を守っていたことを思い出しました。

「日本人の美徳」はここにも根付いていました。